

第 11 回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

優 秀 賞

実践報告部門

地域教材や人権教育からの学習を深化・
発展させる金銭教育の可能性について

～管理職としての関わりから全校的な取り組みをプロデュースする手法～

徳島県・阿南市立山口小学校 教頭 島村 孝

知るぽると

www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2014

1. はじめに

近年学校現場では、教員の高齢化と年齢構成の偏りに危機感が高まり、どの学校でも組織としての活力を維持しながら教育遺産の継承を図ることが課題となっている。

筆者も長年、金銭教育に取り組み実践に努めてきたが、反省として研究指定はひとつのきっかけとなり得ても、実践が定着することへの限界を感じ続けてきた。金銭教育が学校現場に導入された歴史が浅いことを割り引いても、教師一人ひとりの使える力量になりにくい現実。こうしたジレンマを打破するため、今回、管理職として若い世代を育成しながら取り組みのノウハウを伝え、OJTによる意図的・計画的・継続的な情報交換や事例研究を行うことで、教師や児童に浸透する金銭教育を進めたいと考えた。

2. 実践の方向

次代の金銭教育を担う若い世代と事例研究を継続的にいき、教師が育つ中で子どもたちに消費者としてのよりよい生き方に気づかせ、自ら判断できる「自己決定力」を育てる。

3. 切実感のある教材の発掘

本校は、四国遍路 21 番太龍寺と 22 番平等寺の道沿いに位置する全校児童 33 名の小規模校である。春、校区には桜の開花とともに白装束の遍路姿が多く見受けられるようになる。開創 1200 年にあたる今年、四国 88 カ所を世界遺産にしようという動きもあり、地域は活気づいている。児童も校門での挨拶運動や清掃活動中にお遍路さん（四国では親しみをこめてこう呼ぶ）から声をかけられることも多く、最近では外国人のお遍路さんも目立つようになってきた。四国には、巡礼する全ての人を分け隔てなくもてなすという「お接待」という文化が古来より根づいている。

ところが、4 月上旬県内で道順の案内ステッカーを貼っていた韓国人の女性（外国人初の先達）の活動を非難した張り紙が遍路小屋に貼り出されるというショッキングな事件が起こった。心ない一部の人の行動とはいえ、遍路の歴史に悲しい出来事として記憶されることになってしまった。

そのため、学校全体で人権教育に取り組む中で四国の遍路道を世界の人々に開かれたものにしてほしいという学習から、人権について深く考える機会を得た。学習に金銭教育を取り入れる場合は、時期と切実感が大切である。筆者は、スーパーバイザーとして若い担任に金銭教育のねらいや効果を伝えながら、直接授業を担当する学年での学習を題材に指導者の研修と啓発から始めることになった。

4. 実践について

小規模校の実態から、主に教頭が担当する 3・4 年生複式の授業を題材に新任 3 年を終えて赴任した教諭と小学校勤務が初めての助教員とで、手順や効果、身につけた力などを事前と事後で検証していく事例研究会を実施した。

(1) 事例研究の対象となった 3・4 年生の事例 I（価格と品質での競争力とは）…5 月

校区にある「Y ショップ」は、50 年近く地域の住民に親しまれた歴史あるスーパーである。ところが、近所に全国チェーンのコンビニがオープンし、来店客の勢力図が大きく変わると考えられた。そんな折、子どもたちが Y ショップの駐車場に大きなのぼりを見つけた。それは、260 円弁当の発売を宣言する宣戦布告ののぼりであった。値段に相当なインパクトがあり、社会科見学や調べ学習に加え、総合的な学習の時間で「260 円弁当の秘密をさぐる」という課題を設定した。

① 授業の流れ（資料 1）

課題に正対するために、社会の店調べに留まらない視点の提示で

- i) なぜ 260 円弁当を売り出そうとしたのか？
- ii) 260 円弁当を実現するために工夫していることは何か？

について、予想と調べを行った。店長のインタビューからわかってきたことは、Y ショップは 3 月のコンビニオープンで、系列店に挟撃される厳しい状況になっていた。新規オープン店には、定番の商品以外にも生活雑貨や農産物も置いているため来客は増加し、Y ショップの営業に大きな影響を与えたと考えられた。

聞き取りの中で、

- i) コンビニに対抗するために、切り札のお弁当の商品展開を考えたこと、
- ii) 1日に50食ぐらい作っているが、日によって販売量が変なること、
- iii) 多くの利益を得ることは難しいけれど、この販売で来客が見込まれるので工夫をしていること、
- iv) 知名度抜群のコンビニに対抗するため、食材の共同購入や月替わりの弁当を開発しているということなどがわかった。そこからは、需要が少なく過疎化する町のスーパーが苦悩する姿が透けて見えてきた。

そこで、自分が店長ならどんな260円弁当を提案するかという課題を与えた。コンビニのドル箱である弁当に真正面から対抗できる弁当。売価を260円にするため、食材の精選、メニューの絞り込みなどを行い、3・4年生全員がお弁当(案)を提案した(資料2)。

当初は、自分の好きな食材を詰め込むだけの弁当から、作戦会議(各自のよさと弱点を検討する時間)の結果、地元産のお米や特産のミカンを使ったデザートなどコスト意識と共に食材にこだわりのある弁当を指向するようになった。そこでは色合いや栄養バランスなど全てを考慮の対象にはできないが、売価を260円にするには相当な努力が必要で困難が伴うことも改めて確認できた。

事例研究会でもふれるが、例年、夏休みまでには通過儀礼として、このような視点で原価と売価、それによる利潤の確保などの大切さを考えることにしている。

②事例研究会

二人は子どもの発見から課題を見つけ、社会科という教科をもう一つの柱に置くことによって円滑に授業が流れることを指摘したが、身近な材料を探ることが難しいという感想も持った。弁当作りでの価格と品質での競争力の授業では、いろいろな制約を乗り越えていくために子どもがいっしょうけんめい努力する姿が、他の学習で見られないという感想だった。個人差を吸収するために弁当提案書の容器は教師がフレームとして与え、解説も書かせるようにした。

(2) 事例研究となった3・4年生の事例Ⅱ(商品の選択とは)…9月

半年前に市内中心部にオープンした全国展開している巨大スーパーを見学し、その売り場の工夫や販売のノウハウを学び、そこで自分で買ったモノを加えた昼食をとる。

※金銭教育のポイント→お弁当は白いおにぎりとお茶のみ。それ以外のもので、必要なものを所持金300円以内で買う。食事に費やすことのできる時間は約40分。事前に、自分がどんなモノを買う予定であるかを考えさせて、当日の消費行動と比べる。

①授業の流れ(資料3)

金銭教育での「費用対効果」のセンスをみがく学習で、お金の使い方の個性が如実に表れる。選択としては、アツアツの総菜やおかずに向かう子がいたり、あるいはお弁当を受け入れて、食後のデザートを充実させる子も現れた。日常生活では、自分の欲求とお金とのせめぎ合いという状況は起こり得ないはずが、自分の選択で食事時間の楽しみやゆとりが大きく変わるという予期せぬ驚きが生まれることになった。

事前の予定と変わっても、店の販売戦略が巧みで購買意欲を刺激されたせいであるとか、おにぎりとの組み合わせをよく考えた結果だったとか、なぜそれを選択したのかということが浮き彫りにされ、自分の消費行動も見直されることになった。

②事例研究会

二人との検討では、自分の選択でモノを選ぶことは、それを使つての時間までも選択することになり、同時に買えないはずの楽しい食事時間も買っているというドキッとする意見もあった。また、2つの学年で14名(当日は1名欠席の13名)という少人数だから実現できたこと、学校の特長を活かしたということや買うもののエリアを絞り込んだほうが「なぜそれを買ったか」が深く追求できるという意見も出た。

5. 5年生の授業のプロデュース(資料4)

(1) 授業から金銭教育への接続

事例研究と同時進行で、5年生の学習も検討の対象とした。世代や学年の垣根を越え展開を予想し話し合ったが、いきなり金銭教育のことを持ち出さず、子どもの切実感が高まった時に初めて自分のものになるという助言をし、教頭は担任をサポートした。

子どもたちは、四国遍路のことを調べた後、地域のゲストティーチャーの方をお招きし、遍路道の清掃活動や四国遍路の始まりから現在までの思いを聞くことになった。そこでは教頭の地域での人脈が価値を生む。自分たちの家でも、遍路を接待したりおふだを受け取った経験などを聞き取り、遍路との関わりについても確認できた。それと共に、新聞の差別事件の読み解きから、外国人を中傷した張り紙に対する憤りの気持ちが生まれることにもなった。やがて子どもたちからは、遍路道の清掃体験や整備に一役買いたいという機運が生まれることになった。話し合いの結果、今後次のような学習展開をたどる。

本校は、市内の支援学校とは学校訪問や学校祭に参加するなど、以前より交流を続けてきた。子どもたちからは、開創 1200 年を記念してのグッズを作りたいという希望が出たため、支援学校の配布物からヒントを得て、現在ガラス工芸品を予定している（資料 5）。

まず、山口小学校側から四国遍路にまつわるデザイン（案）を送付し、それを支援学校側が修正。双方で検討・修正する中で数種類のガラス工芸品を生産する。いわば、企画を 5 年生が考え、支援学校の高等部に持ち込んだものを委託生産し、それを山口小学校側で販売するという手順となる。資金面は各自出資の株式会社の形式をとるが、不足分については担任や学校長に出資依頼をする。

このプロジェクトによる支援学校側のメリットとしては、学校の情報発信や子どもたちが意気を感じてくれる意識面での変化、学校間交流の新しい展開への提案である。

（2）四国遍路のシンボルとするために（利益の地域への還元と情報発信）

全長 1400km にも及ぶ遍路道には、遍路が道に迷わないように古来から数多くの道標が立てられている。5 年生は人権学習に取り組む中で、現在の観光的な遍路でなく、かつてはふるさとを追われた人や病気の回復を願って歩いた人などの歴史についても学んだ。子どもたちの最終目標は、四国遍路の情報発信にもなるようにガラス工芸品の利益で自分たちがデザインした道標を立てることに落ち着きそうである。

自分たちで遍路文化を図案化したガラス工芸品を買ってもらい、そこからの利益で道標を立てることは、記憶と記録に刻まれる事業になる。もちろん、人権の視点を考慮し、ハングル文字はもちろん、英語、中国語、フランス語、ドイツ語、アラビア語、スペイン語等のさまざまな言語が刻まれ、世界から訪れた人々を歓迎するはずである。

（3）今後の展望

これから、5 年生のプロジェクトはいよいよ佳境へと入っていく。まだまだ、販売方法や場所、時期、定価の設定など、子どもたちが向き合わなければならない課題は数多い。この学習を通じていちばん変わりつつあるもの、それは、担任の言葉を借りると「誰かがどうにかしてくれるだろう」という小規模校特有の他力本願な意識の変革であるらしい。

このように、調べるより体験すること、体験することより販売する方がより実践的であるという動かしがたい事実。金銭教育により、決断するための根拠や資料、正しい情報に基づき、最後は自分で選択する姿勢が育ったことにある。今後、事業運営と共にお金を稼ぐことに対しては子どもたちの真剣さ（本気度）を試す良い機会にもなっていく。

4 年生は前期（徳島県阿南市は二学期制を採用している）に県の環境課から講師を招いた学習から、川の水を汚さない廃油石けんの生産販売に動き出したし、3 年生も水を見つめる学習の中から新たな栽培活動に取り組もうとしている。また、事例研究会で研修してきたことが担任の意識も変えつつある。小規模な学校であるが故の波及効果も大きい。

今後、順調な計画実施を願うものの、総合的な学習の時間での扱いだけに、その振り幅も大きい。学習での肝は、ガラス工芸品の販売が低調に終わった時であると考えている。目標達成のための資金が不足し道標が完成できない時に、同じく事業（生産・販売）を行う 3 年生・4 年生に対し、意義やねらい、完成によってもたらされる経済効果や情報発信、地域への貢献などを自分の言葉で訴え、資金提供を呼びかけることができれば、金銭教育が真に子どもたちの力になったと言っていいたいだろう。そして、その時に 3 年生や 4 年生がどのような反応と決定を下すかも楽しみである。

6. おわりに

改めて気づくのは、金銭教育と総合的な学習の時間との良好なマッチングである。

このガラス工芸品の制作のニュースは、地元阿南市の出身者が東京で開催する「ふるさと光流会（造語）」でも紹介されるという流れが決まりつつある。今後、東京出張所での展示販売や企業とのタイアップ等、ドラマティックな展開を心待ちにしている。

最後に、はっきりと言える。金銭教育は、夢を育て実現する学習であると――。

資料 1 総合的な学習の時間（金銭教育） 学習活動の様子①



Yショップの店長に質問を送るために項目を精査する4年生

4年生が、Yショップの店長に取材を申し込んでから、260円弁当についての質問をまとめている様子。全校児童が33名という規模は、お互いに分かりあっている関係で緊張感が乏しいが、260円弁当の戦略や難しさを知ってから、表情に真剣さが見える。



話し合う3年生

全員が意見を出しながら質問項目を話し合っているところ。全員がこれほど集中して人の話を聞くことは、他の教科や領域では感じられないことである。



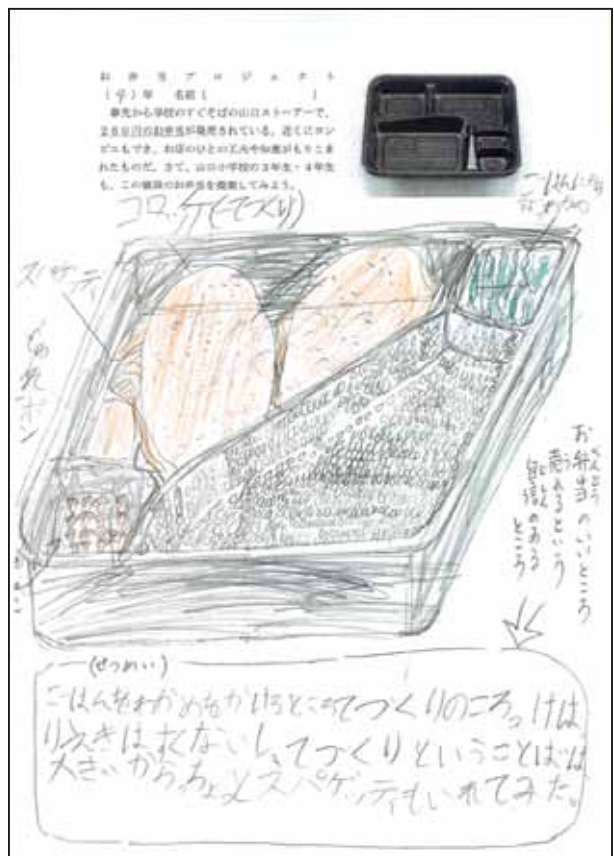


コンビニを迎え撃つ「260 円弁当」が並べられているところ
 小学校から百メートルほどしか離れていない場所にある Y ショップで、コンビニ対抗の弁当として開発されたもの。この日は右側のカツ丼が 260 円で、中央ののり弁当が 298 円、左側の列がビビンバ丼 298 円である。
 入れ物を共用するなど、コスト低減に努めているが、後日、国内最大手のスーパーの価格と品揃えを知り驚くことになる。



全町運動会に合わせて作られた Y ショップの寿司弁当
 地元開催ということで、公民館より 125 食注文されたもの（消費税込み 350 円）。
 地魚である「ぼうぜ」や「シメチ」などが入った素朴なもので、子どもたちの結論も、こうしたお弁当で特長を出すことが生きる道であるという結論になった。

資料 2 お弁当プロジェクトの提案例



資料 3 総合的な学習の時間（金銭教育） 学習活動の様子②



国内最大手のスーパーでの買い物の一場面

昼食時間に食べるモノを買うのに、迷い固まっている3年生二人。事前に考えていても、お店の陳列やポップ、売り出し情報に迷って固まってしまう。



駄菓子のコーナーを見つけた4年生

食後に、食べるお菓子を物色中。消費税を含めて正確な金額を出したい。白い帽子の3年生が横で考えている。



駄菓子のコーナーで

300円という制約が真剣な選択となる。電卓を片手に金額を詰めていく4年生。かごの中で、先に選択したおかずの揚げ物が見えている。



持ってくる弁当は白いおにぎりだけという条件で選択した昼ごはん

エビフライのおかずとゼリー、マシュマロという組み合わせ。エビフライをおかずにおにぎりを食べ、ゼリーを食後にという3年生女子の選択。

資料 4 5 年生の総合的な学習の時間・・・金銭教育と教科領域との接続を入れた指導計画

月	総合的な学習の時間の内容と主な学習活動	領域と配慮事項
4	<p>○校区のフィールドワーク実施。 ←</p> <p>地域の自慢をさがそう。</p> <p>↓</p> <p>○学校の自慢を見つけよう。 ※イチョウの彫刻 ワシントン椰子</p>	<p>☆赴任した職員も入れて校区を理解する。</p> <p>ふるさと学習</p>
5	<p>四国遍路について調べよう。</p> <p>↓</p> <p>○家の人に話を聞こう。 ←</p> <p>○遍路道を清掃している前田さんに話を聞こう。</p>	<p>☆家族の実体験を聞くことで、学習への距離感をなくし、課題に迫っていく。</p>
6	<p>遍路小屋の差別落書きについて調べよう。</p> <p>↓</p> <p>○新聞記事から、外国人差別について考えよう。 ○外国人遍路の気持ちを考えよう (NHK の映像を上映する)。 ○外国人の差別について考えよう。 ←</p>	<p>ふるさと学習 人権学習</p> <p>☆差別落書きがいかに悪意のある行動かを知る。</p>
7	<p>四国遍路の記念となるものを作って販売しよう。</p> <p>↓</p> <p>○記念になるものを考えよう。 ←</p> <p>○材料と生産数を決めよう。 ○自分たちでできるのかを検討しよう。</p>	<p>金銭教育</p> <p>☆ガラス工芸品の提案が出た場合は、支援学校との連絡をとる。</p>
9	<p>会社について知ろう。</p> <p>↓</p> <p>○会社のことについて話を聞こう。 ←</p> <p>○どんな仕事があるのだろう。 ○自分にできることは何だろう。</p>	<p>金銭教育</p> <p>☆県教委へ消費者教育の講師を招聘し、日時を調整する。</p>

月	総合的な学習の時間の内容と主な学習活動	領域と配慮事項
10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">6年生からアイヌ民族のことにについて聞こう。</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">↓</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ○先輩が作ったカルタのことを聞こう。 ○アイヌの人の受けてきた差別について知ろう。 </div> <div style="margin-left: 10px;">←</div> </div>	<p>人権学習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">☆人権カルタのテーマのアイヌ民族の差別を見つめる。</div>
11	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ガラス工芸品を宣伝し販売しよう。</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">↓</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ○ガラス工芸品の最終デザインを考えよう。 ○ガラス工芸品を製造しよう。 ○それが実際にできる計画なのかどうか。 </div> <div style="margin-left: 10px;">←</div> </div>	<p>金銭教育</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">☆事業の成功が見込める販売計画か確認する。</div>
12	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">販売利益をどうするかを考えよう。</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">↓</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ○出資者への返金と配当をどうするかを考える。 </div> <div style="margin-left: 10px;">←</div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">☆利益が生まれたことは自分たちだけの力でないことを確認させる。</div>
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">遍路の人に見てもらおう道標を作ろう。</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">↓</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ○道標は、どんな役割を果たすのかを考えよう。 ○遍路道を歩いて設置場所を考えよう。 ○道標には何を刻むのがいいのか考えよう。 </div> <div style="margin-left: 10px;">←</div> </div>	<p>金銭教育 人権教育</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">☆差別落書きの事件を想起する。</div>
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">お世話になった人を招いて感謝の会をしよう。</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">↓</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習が成功したことの気持ちを伝えよう。 ○6年生に何かプレゼントしよう。 </div> <div style="margin-left: 10px;">←</div> </div>	<p>国際理解教育 ふるさと学習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">☆お金で買えないような大切なことにも気づかせる。</div> <p>金銭教育</p>

資料 5 四国遍路 1200 年記念 ガラス工芸品の試作



阿南支援学校から届いたガラス工芸品のサンプル

ガラス工芸品は、自分たちのペースで焼くまでの作業を進めることができるため、時間管理もしやすい。高温で溶けたガラスが見事なテリを見せている。これからデザインが確定すれば、それを分業で作る作業が待っている。



委託生産になるものの、自分たちが釜で焼く前の段階まで仕上げるとすると、やがて技巧などで限界があることも子どもたちには見えてくる。小学生として取り組んだ素朴さと商品としてのレベルの両立は難しいところである。記念品をクリップにするか、ブローチにするか、選択肢も多い。



ガラス工芸品の原材料

鮮やかな色に心躍るが、1個あたりのコストも無視できない値段になることも事業展開の中では考えていかなければならない。



ガラス工芸品の釜

800度の高温にして、冷えて取り出せるまで二日。計画的に生産できること、中断や追加もできるところが、野菜や食べ物の販売とちがい長所である。